

香川県立保健医療大学リポジトリ

中山間地域の高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」に関する文献検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 香川県立保健医療大学 公開日: 2025-04-28 キーワード (Ja): 369.26 (老人福祉) キーワード (En): 作成者: 山本 大祐 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.50850/0002000015

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



中山間地域の高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための 「思い」に関する文献検討

山本 大祐^{1), 2), *}

¹⁾ 香川県立保健医療大学大学院看護学専攻

²⁾ 関西医科大学看護学部・看護学研究科

要旨

中山間地域における看取り支援を行う上で必要なことは、その地域で生活している高齢者の文化的価値観をケアに反映させることである。本研究は、中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」について、文献検討で明らかにすることを目的とした。分析対象は中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」に関して記述されている17文献とした。17文献を分析した結果、24コード、10サブカテゴリー、4カテゴリーが抽出された。中山間地域に在住する高齢者が地域で暮らし続けることへの思いを表すカテゴリーは、【不便な生活環境】【価値ある地域での暮らし】【限られた人とのつきあい】【子どもとの関係性保持】であった。中山間地域の高齢者は、不便な環境と理解しながらも、他者に迷惑をかけることなく最期まで地域で暮らし続けたいという思いを抱えていることが明らかになった。中山間地域における高齢者の看取り支援においては、高齢者への訪問看護等の在宅医療サービスの有効活用に関する情報提供の効果的な方法について検討する必要がある。

Key Words：中山間地域 (hilly and mountainous areas), 高齢者 (older adults), 暮らし (living), 思い (feelings)

I. はじめに

日本の65歳以上人口は2023年に3,623万人となり高齢化率は過去最高の29.1%となった¹⁾。そのような中、自宅で最期を迎えたいと思っている高齢者は全体の半数以上もいる²⁾にも関わらず、自宅で亡くなる人は17%にとどまっており³⁾、日本社会の重要な課題となっている。

全国の自治体別に在宅医療に関する統計調査等のデータを再集計および集約した「在宅医療にかかる地域別データ集」⁴⁾によると、自宅死亡割合には地域差があることが明らかになっており、人口密度が高く医療機関へのアクセスが容易で自宅での看取りを支援する体制整備が整っている市町村は、自宅死亡割合が高くなる傾向がある⁵⁾ことも明らかになっている。したがって、今後の

地域医療の提供体制整備においては地域差を考慮した対応が求められているが、十分な対応がとられているとは言い難い。

山深い場所に位置している中山間地域は国土の約7割を占め、少子高齢化や人口減少に伴う課題に直面している。地域における暮らしは、隣家や店舗が近くに無く、道路の勾配が急であったり、冬季には積雪や路面凍結があるなど移動に困難を生じることが多く⁶⁾、住民が日常生活を送る上で不便な地域環境と言われている。そのような山村過疎地域における高齢者の看取り支援は、終末期ケアにふさわしい環境整備が整っておらず、介護する家族の支えと訪問診療および訪問看護のさらなる普及の必要性が報告⁷⁾されている。

高齢者の日常生活は文化的価値観に影響を受ける⁸⁾と言われている。そのため、地域に暮らし人々を支援す

*連絡先：〒573-1004 大阪府枚方市新町二丁目2番2号 関西医科大学看護学部 山本 大祐

E-mail: yamamoda@hirakata.kmu.ac.jp

<受付日 2024年9月2日> <受理日 2024年11月6日>

る看護師は、住民の暮らしや考え方の背景となっている文化的価値観の理解に努めることが必要⁹⁾とされている。つまり、看護師が中山間地域における看取り支援を行う上で重要なことは、看取りプロセスに適したケア方法を理解するだけでなく、その地域で生活している高齢者の文化的価値観をケアに反映させることである。

中山間地域で暮らす高齢者に関する先行研究では、後期高齢者の文化的視点を含めた個人エンパワメントの様相を明らかにし、看護職として後期高齢者自身が力を発揮できるように支援することの重要性が報告¹⁰⁾されている。その他には、要介護高齢者の医療福祉ニーズ¹¹⁾、住民の福祉ニーズ調査¹²⁾、専門職がとらえた介護高齢者の医療福祉ニーズ¹³⁾など医療や福祉ニーズに関する報告が多く、高齢者が中山間地域で最期まで暮らし続けることに対する考えや価値観に着目した研究は見当たらない。

そこで、中山間地域における高齢者の価値観を看護師の看取りケアに反映させる基礎資料とするために、中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」について、文献検討で明らかにすることを目的とした。

II. 研究目的

中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」について、文献検討で明らかにすることである。

III. 研究方法

1. 対象文献の選定

本研究は日本の中山間地域に在住する高齢者を対象とした研究であるため、対象となる文献は国内のものに限定し選定した。文献の選定は、医中誌 Web 版（以下、医中誌と略す）のデータベースを用いて、2000 年から 2024 年 7 月現在までに発行された文献を検索した。検索語は「中山間地域」として、会議録および解説・特集を除外した本文ありの原著論文であることで絞り込み、130 件が抽出された。次に、これらの文献のタイトルおよびアブストラクトに医療福祉サービスの専門職の捉えている高齢者の「思い」も含めた中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」に関する記述がある 69 件に絞り込んだ。さらに、これらの文献の結果および考察に、中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」について記述されている 17 文献を分析対象とした。

2. 用語の操作的定義

1) 思い

「思い」とは、高齢者が中山間地域で最期まで暮らし続けるために「受けとめていることや感じていること」

とした。

3. 分析方法

分析対象になった文献については、表題、発行年、筆頭著者、研究対象、研究方法について整理した。次に、質的研究は、論文を精読して結果および考察より中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」に関する記述を抽出した。量的研究は、中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」に関わる質問項目に対する結果および考察より「思い」に関する記述を抽出した。さらに、質的研究および量的研究より抽出した記述部分が忠実な意味内容を表すように全文より補った。次に、抽出した各記述間の類似点や相違点に着目しながら論文間の比較検討を行い、意味内容を損なわないように要約してコード化し、共通するコードをまとめてサブカテゴリーとし、サブカテゴリーをまとめてカテゴリーを生成した。なお、サブカテゴリーおよびカテゴリー化するには、地域看護に精通した研究者にスーパーバイズを受け、妥当性の確保に努めた。

IV. 倫理的配慮

本研究は文献に記述された内容をデータとしているため、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に基づく倫理的配慮を要する研究には該当しない。本研究で使用した文献は、著作権に留意し、本文中に引用したことを明記するとともに引用文献として記載した。

V. 結果

1. 中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」に関する文献の概要
分析した文献の概要を「表 1」に示す。

対象文献を整理した結果、研究対象は中山間地域に居住する高齢者を含めた住民が 13 件、医療福祉サービスの専門職が 4 件であり、研究方法は量的研究が 7 件、質的研究が 9 件、量的・質的研究が 1 件であった。

2. 中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」

対象文献のデータ内容を分析した結果、中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」として、24 コード、10 サブカテゴリー、4 カテゴリーが抽出された。中山間地域に在住する高齢者が地域で暮らし続けることへの思いを表すカテゴリーは、【不便な生活環境】【価値ある地域での暮らし】【限られた人とのつきあい】【子どもとの関係性保持】であった。以下、カテゴリーは【 】、サブカテゴリーは《 》、コードは「 」, 文献番号はコード末尾に（ ）で示す。

表1. 中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」に関する文献の概要

番号	タイトル	発行年	著者 (筆頭)	研究対象	研究方法
1	中山間地域における高齢者の健康寿命を支える地域保健福祉の基盤づくりに関する研究	2006	太湯 好子	富山地域の中山間地域の65歳以上の住民 55世帯79名	質問紙調査 インタビュー調査
2	中山間地域再生に向けた健康福祉コンビニ構想の有効性の検討-第2報:小規模・高齢者集落の課題-	2008	後藤 みゆき	山口県の中山間地域4集落に住む16戸の高齢者世帯	聞き取り調査
3	農村地域に暮らす高齢者の高齢者の生活ニーズとソーシャルサポートの検討	2008	小林 恵子	高齢者へのサービス提供者(豪雪・中山間過疎地域11名と都市近郊農村地域8名)	グループインタビュー
4	中山間地域再生に向けた健康福祉コンビニ構想の有効性の検討-第1報:生活者の健康実態からの考察	2008	田中 マキ子	山口県の中山間地域4集落に住む16戸の高齢者世帯	質的記述的研究
5	中山間地域に居住する高齢者の地域生活とQOL評価の関係	2011	三宮 基裕	中山間地域に居住する高齢者30名	ヒアリング調査
6	新潟県中山間地域に暮らす高齢者の通院手段と関連要因	2011	藤川 あや	新潟県の中山間地域の65歳以上の単身もしくは高齢者のみの世帯の高齢者156名	ヒアリング調査
7	中山間地域の高齢者に対する健康支援の課題	2012	後藤 みゆき	健康相談に参加した住民(高齢者)4名	質的記述的研究
8	高齢者の日常生活状況に関与する各種要因の解析 第I報	2015	杉浦 正士	三河中山間地域の65歳以上の住民4,149名	質問紙調査
9	中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズに関する研究	2015	鈴木 裕介	介護支援専門員・社会福祉士11名	質的記述的研究
10	中山間地域に居住する高齢者の健康関連QOLの実態	2015	中津井 貴子	山口県の中山間地域の65歳以上の住民28名	質問紙調査
11	中山間地域に暮らす後期高齢者の個人エンパワメントの様相	2015	松谷 ひろみ	75歳以上の中山間地域住民23名、保健師1名、公的施設職員2名	エスノグラフィー
12	高齢者の日常生活状況に関与する各種要因の解析 第II報	2016	杉浦 正士	三河中山間地域の65歳以上の住民4,149名	質問紙調査
13	過疎・高齢化が進む中山間地域の訪問看護ステーション管理者が求める支援ニーズ	2016	李 錦純	訪問看護ステーション管理者12名	質的記述的研究
14	中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの現状	2017	鈴木 裕介	高知県の中山間地域の住民196名	質問紙調査
15	中山間地域における高齢者の被援助志向性の社会的要因	2018	矢嶋 裕樹	岡山県の中山間地域の住民731名	質問紙調査
16	中山間地域で暮らす要介護高齢者が「できる限り在宅生活を継続する」ための要件	2019	石橋 文枝	島根県の中山間地域の居宅介護支援専門員6名	質的記述的研究
17	中山間地域における限界集落で暮らし続ける独居高齢者の生を支えるプロセス	2021	村上佳栄子	京都府の中山間地域の限界集落に居住する独居高齢者5名	GTA

1) 【不便な生活環境】

【不便な生活環境】は、《移動の負担が大きい》《医療福祉サービスの支援が不足している》《要介護状態での生活継続は難しい》で構成されていた。《移動の負担が大きい》では、中山間地域での生活に対して高齢者は「公共交通機関の利便性が悪い(6・9)」こともあり、自身で移動する手段を確立しているものの「高齢になるほど自分で運転をすることが難しくなる(2・14)」こともあり、「通院費用がかかってしまう(6・9)」と感じていた。《医療福祉サービスの支援が不足している》では、中山間地域の高齢者は「地域内に医療資源が少ない(9・16)」「近くに医療機関が少ないため早期に受診ができない(16)」と感じていた。《要介護状態での生活継続は難しい》では、中山間地域の高齢者は「介護の担い手になる子世代が都市部で離れて生活している(2・7・13)」こともあり、「要介護状態になれば生活を維持するのが難しい(2)」や「自立して生活していくには限界がある(3・17)」と感じており、最終的に「他者の支援が必要になれば病院や施設に入りたい(4・7・16)」という思いを抱いていた。

2) 【価値ある地域での暮らし】

【価値ある地域で暮らし】は、《地域での生活は精神的安定につながる》《地域での生活に満足している》《努力して地域の規範を守る》で構成されていた。《地域での生活は精神的安定につながる》では、中山間地域の高齢者は「農業に従事することが生きがいにつながる(12・14)」と感じており、地域での暮らしを「この地域で生きることが精神的健康を豊かにしている(17)」という思いを抱いていた。《地域での生活に満足している》では、「衰えを感じながらも現状の生活に満足している(7・10・14)」や「これからもこの地域で生活を継続していきたい(2・4)」という思いを抱いていた。《努力して地域の規範を守る》では、中山間地域の高齢者は住民として「努力して地域の規範を守る(11)」という思いを抱いていた。

3) 【限られた人とのつきあい】

【限られたひととのつきあい】は、《隣人との最低限のつきあい》《他者に迷惑をかけない生活がしたい》で構

表 2. 中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」

カテゴリー	サブカテゴリー	コード【文献No】
不便な生活環境	移動の負担が大きい	公共交通機関の利便性が悪い【6・9】
		通院費用がかかってしまう【6・9】
		高齢になるほど自分で運転をすることが難しくなる【2・14】
	医療福祉サービスの支援が不足している	地域内に医療資源が少ない【9・16】
		近くに医療機関が少ないため早期に受診ができない【16】
	要介護状態での生活継続は難しい	要介護状態になれば生活を維持するのが難しい【2】
		自立して生活していくには限界がある【3・17】
		介護の担い手になる子世代が都市部で離れて生活している【2・7・13】
		他者の支援が必要になれば病院や施設に入りたい【4・7・16】
	価値ある地域での暮らし	地域での生活は精神的安定につながる
地域での生活に満足している		この地域で生きることが精神的健康を豊かにしている【17】
		衰えを感じながらも現状の生活に満足している【7・10・14】
		これからもこの地域で生活を継続していきたい【2・4】
努力して地域の規範を守る		努力して地域の規範を守る【11】
限られた人とのつきあい	隣人との最低限のつきあい	地区内の隣人との付き合いは深くない【2・4・10・11】
		日常生活で会話できる存在がかなり重要【8】
	他者に迷惑をかけない生活がしたい	福祉サービスを受けていることを知られたくない【9】
		深く関わることは他者にとって迷惑である【9】
		他者に頼らないで自立して生活をしたい【1・7・15】
子どもとの関係性保持	安心して暮らすために子どもの情緒的支援が必要	自立した生活を継続するために自分の健康が重要である【7】
		子どもには情緒的なサポートをして欲しい【7】
		離れて暮らす子どもの帰省が生活に安心感を与える【2・5】
	子どもに迷惑をかけたくない	困りごとの相談ができる子どもの存在が重要である【7】
		子どもに迷惑をかけたくない【7】

成されていた。《隣人との最低限のつきあい》では、中山間地域の高齢者は「地区内の隣人との付き合いは深くない（2・4・10・11）」「日常生活で会話できる存在がかなり重要（8）」と受けとめており、「福祉サービスを受けていることを知られたくない（9）」と感じていた。《他者に迷惑をかけない生活をしたい》では、中山間地域の高齢者は「深く関わることは他者にとって迷惑である（9）」と受けとめており、「他者に頼らないで自立して生活をしたい（1・7・15）」「自立した生活を継続するために自分の健康が重要である（7）」という思いを抱いていた。

4) 【子どもとの関係性保持】

【子どもとの関係性保持】は、《安心して暮らすために子どもの情緒的支援が必要》《子どもに迷惑をかけたくない》で構成されていた。《安心して暮らすために子どもの情緒的支援が必要》では、中山間地域の高齢者は「子どもには情緒的なサポートをして欲しい（7）」や「離れて暮らす子どもの帰省が生活に安心感を与える（2・5）」

と感じており、高齢者は「困りごとの相談ができる子どもの存在が重要である（7）」という思いを抱いていた。

《子どもに迷惑をかけたくない》では、中山間地域の高齢者は「子どもに迷惑をかけたくない（7）」という思いを抱いていた。

VI. 考察

1. 中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」について

中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」について、以下カテゴリー別に考察する。

1) 不便な生活環境

中山間地域における生活は、隣家や店舗が近くに無く、道路の勾配が急であるとともに、冬季の積雪や路面凍結により移動に困難が生じる地区が多いため生活の維持が困難な状況が多い⁶⁾とされている。また、中山間地域のような過疎地域の高齢者の身体能力が低下するこ

とは、公共交通機関の利用阻害の大きな要因になると報告¹⁴⁾されているため、中山間地域に在住している高齢者は加齢のため自身の移動手段が使えなくなることへの将来的な不安を感じていると考えられる。

2) 価値ある地域での暮らし

中山間地域に在住している高齢者は、現在の暮らしが住みやすい環境といえないことを理解しているにも関わらず、地域での生活に満足し、この地域で暮らし続けることを望んでいた。また、中山間地域に在住している高齢者は、生活のしづらさも含めてこの地域で生活することに生きがいを感じていた。中山間地域の高齢者の生きがいについては分析結果より「農業に従事できる」ことがあげられていた。中山間地域で暮らす高齢者の農業への思いについて、高齢者にとっては畑を守ることが使命であり生きがいにつながっている¹⁵⁾と述べられている。さらに、過疎化が進む地域の高齢者にとっての農作業と生きがいの関連については、農作業による運動機会と農作物の育成と成長を確認できることが自身の精神心理的な健康に影響すると述べられている先行研究¹⁴⁾もある。

中山間地域の高齢者は地域で暮らし続ける上で「努力して地域の規範を守る」という思いがあった。地域の規範を守ろうとする中山間地域の住民特性について、中山間地域住民の伝承に関する民俗学の先行研究によると、地域には伝統的な共同体秩序である「隣保共助」の精神と全村一致の組織化があると説明されている¹⁶⁾。つまり、中山間地域の高齢者が地域で暮らし続ける上で抱いている「規範を守る」意識の背景には、中山間地域特有の共同体秩序の存在を示しており、伝統的な規範を守ることの必要性が中山間地域で暮らし続ける高齢者に継承されていると考えられる。

以上のように、中山間地域に在住している高齢者は農業に従事できることを含めた地域での暮らしに満足し、伝統的な規範を守りながらも地域に暮らし続けることに価値を見いだしていることが明らかになった。

3) 限られた人とのつきあい

中山間地域における高齢者の人間関係については、隣人と深い関係性を望んでいなかった。中山間地域は一般的に近所づきあいが濃密であり相互扶助が機能している¹⁴⁾とされており、地域で生活している人々にとっては地域の人々との助けあいは、なくてはならない生活の一部となっている¹⁷⁾と述べられてきた。しかし、今回の分析結果では、高齢者は「地区内の隣人との付き合いは深くない」「深く関わることは他者にとって迷惑である」としており、他者に頼らず生活するために自立した生活を願っていた。つまり、中山間地域の高齢者は意図的に人づきあいを避けていることも考えられる。なお、意図的に社会的孤立を選択した高齢者の特徴には、現病歴や既往歴が無いものの、高年齢で身体機能が不良になるという特徴があること¹²⁾が明らかになっている。

4) 子どもとの関係性保持

中山間地域に在住する高齢者は、自分の子どもに対して「安心して暮らすために子どもの情緒的支援が必要」という思いを抱いており、隣人との関係構築の代わりに離れて暮らす子どもとの関係性を大切にしていた。中山間地域で生活する人々は、自分のことが自分でできなくなった状態や終末期には子ども達にみてもらいたいという気持ちを抱いている¹⁷⁾と言われている。しかし、高齢者は「子どもに迷惑をかけたくない」という思いも抱いていた。高齢者の「迷惑をかけたくない」という思いには、迷惑をかけたくない対象と良好な関係を保ち、情緒的なサポートを得たいという願いがある¹⁸⁾と述べられている。つまり、中山間地域に在住する高齢者は地域で最期まで暮らし続ける上で、子どもの情緒的な支援を得る必要があると思っており、そのために子どもとの良好な関係性を保持したいと願っていると考えられる。

2. 中山間地域における高齢者の看取り支援の課題

本研究結果より、中山間地域では医療資源が不足し早期の受診行動が取れないという思いを抱く高齢者の存在が示された。中山間地域における在宅医療の現状として、在宅医療サービスの遠距離移動や医療機関への距離が遠いこと¹⁹⁾が述べられており、移動に対して困難感を感じている中山間地域の高齢者の認識は間違っていない。しかし、医療資源が不足し早期の受診行動が取れないと考えている高齢者は、自身の健康状態が悪化してから受診することが予測できる。また、中山間地域においては、症状の悪化や身体機能の低下を防ぐ上での医療受診行動の重要性と予防目的の訪問看護の認知度の低さについて述べている先行研究²⁰⁾もある。特に、中山間地域の要介護者は介護保険の情報不足や知識不足による影響で在宅生活を困難にしている実状がある²¹⁾ことも明らかになっている。中山間地域の高齢者は、最期まで地域で暮らし続けることができるとは思っておらず、要介護状態になれば生活を継続することは難しいと感じている。つまり、中山間地域で暮らす高齢者は希望と諦めの感情を抱いて生活しているため、訪問看護等の在宅医療サービスの有効活用に関する情報提供方法についても検討する必要がある。

Ⅶ. 結論

本研究では、中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」について明らかにすることを目的に文献検討を行った。高齢者が中山間地域で最期まで暮らし続けるための「思い」とは、【不便な生活環境】【価値ある地域での暮らし】【限られた人とのつきあい】【子どもとの関係性保持】であった。中山間地域の高齢者は、不便な環境と理解しながらも、他者に迷惑をかけることなく最期まで地域で暮らし続けたいという思いを抱いていることが明らかになった。

VIII. 本研究の限界と課題

本研究の対象文献は17件であるため、中山間地域に在住する高齢者が最期まで地域で暮らし続けるための「思い」として一般化するには注意が必要である。今後、より実践的な中山間地域の看取り支援方略を検討するためには、対象となる高齢者の健康状態や家族形態および地域固有の風土を明確に設定した上で検証を深めていく必要がある。

本研究は、科学研究費助成事業「基盤研究(C)」(課題番号20K11117)の助成を受けて行われました。

利益相反：本研究における利益相反(COI)は存在しない

文献

- 1) 内閣府. 令和6年版高齢社会白書(全体版), https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2024/zenbun/06pdf_index.html
- 2) 内閣府. 令和元年版高齢社会白書(全体版), https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2019/zenbun/01pdf_index.html
- 3) 厚生労働省. 厚生統計要覧(令和5年度), https://www.mhlw.go.jp/toukei/youran/indexyk_1_2.html
- 4) 厚生労働省. 在宅医療にかかる地域別データ集, <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000134262.pdf>
- 5) 石川雅俊. 全国市町村における自宅死亡割合とその関連因子の探索. 日本医療経営学会誌 12(1): 15-19, 2018.
- 6) 矢嶋裕樹, 矢庭さゆり. 中山間地域における高齢者の被援助志向性の社会的要因. 新見公立大学紀要 38(2): 27-33, 2018.
- 7) 宮田延子, 安江悦子, 橋本廣子, 下井勝子 ほか. 山村過疎地域における高齢者の看取りと医療福祉サービス. 岐阜医療科学大学紀要 1: 131-140, 2007.
- 8) 正木治恵, 山本信子. 高齢者の健康を捉える文化的視点に関する文献検討. 老年看護学 13(1): 95-104, 2008.
- 9) 日高未希恵, 今井秀樹. 中山間地域に暮らす人々のCivic Prideに関連する要因-地域の文化的価値観に着目した看護への示唆-. 日本看護科学学会誌 41: 806-814, 2021.
- 10) 松谷ひろみ, 原祥子. 中山間地域に暮らす後期高齢者の個人エンパワメントの様相. 日本看護研究学会雑誌 38(1): 101-111, 2015.
- 11) 鈴木裕介. 中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの現状. 高知県立大学紀要(社会福祉学部編) 66: 27-35, 2017.
- 12) 棚田裕二, 大竹晴佳, 畑本英子, 佐藤伸孝. 中山間地域における地域住民の福祉ニーズ調査研究 B市C地区における福祉に関するアンケート調査から. 新見公立大学紀要 37: 167-174, 2016.
- 13) 鈴木裕介. 中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズに関する研究 地域を基盤として支援を行っている福祉専門職に対するインタビュー調査に基づいて. 社会福祉学 56(3): 58-73, 2015.
- 14) 谷本圭志, 細井由彦. “過疎地域の戦略”, 第1版, 学芸出版社, 京都, 26-62, 2012.
- 15) 鈴木裕介. 中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズに関する研究 地域を基盤として支援を行っている福祉専門職に対するインタビュー調査に基づいて. 社会福祉学 56(3): 58-73, 2015.
- 16) 山下裕作. “実践の民俗学-現代日本の中山間地域問題と「農村伝承」-”, 農山漁村文化協会, 東京, 20-28, 2008.
- 17) 吉野明子, 野島佐由美. 中山間地域で生活する人々の孤立感. 高知女子大学看護学会誌 24(2): 39-47, 1999.
- 18) 池内朋子, 小野真由子, 長田久雄. 対人関係における高齢者の「迷惑をかけたくない」思い: 文献研究による検討. 応用老年学 16(1): 89-98, 2022.
- 19) 李錦純, 山本大祐, 牛尾裕子, 森菊子 ほか. 過疎・高齢化が進む中山間地域の訪問看護ステーション管理者が求める支援ニーズ. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 23: 89-103, 2016.
- 20) 牛尾裕子, 森菊子, 増野園恵, 李錦純 ほか. 高齢在宅療養者の訪問看護による重症化予防のアウトカム指標の検討. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 26: 15-24, 2019.
- 21) 石橋文枝. 中山間地で暮らす要援護高齢者が「できる限り在宅生活を継続する」ための要件(第1報) 島根県雲南市2地域の居宅介護支援専門員のインタビュー調査から. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 (79): 29-37, 2019.

Review of the Literature on Older Adults’ Intentions to Complete Their Lives in Hilly and Mountainous Areas

Daisuke Yamamoto^{1), 2) *}

¹⁾*Graduate School of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences,
Doctoral Program in Nursing,*

²⁾*Kansai Medical University Faculty of Nursing*

Abstract

It is important to reflect on the values of older adults when giving end-of-life care in hilly and mountainous areas. This study conducts a literature review to clarify older adults’ thoughts about continuing to live in these remote areas until the end of their lives. The analysis examined 17 studies that described the thoughts of older adults living in hilly and mountainous areas and extracted 24 codes, 10 subcategories, and four categories. The categories included “Inconvenient living environment,” “I want to continue living in the area,” “Interaction with a limited number of people,” and “My children’s presence is key.” The results showed that older adults living in hilly and mountainous areas understand that they live in an inconvenient environment; nevertheless, they wish to continue living in these remote areas until the end of their lives without causing trouble for other people. End-of-life care for older adults in hilly and mountainous regions should consider functional ways to provide older adults with relevant information on the effective use of home-based healthcare services such as home nursing.

Key Words : *hilly and mountainous areas, older adults, living, feelings*

*Correspondence to : Daisuke Yamamoto, Faculty of Nursing, Kansai Medical University 2-2-2, Shinmachi, Hirakata, Osaka 573-1004, Japan
E-mail : yamamoda@hirakata.kmu.ac.jp